

2008年5月16日

関係者各位

株式会社クエスト
ジャスダック コード番号 2332

2007年度期末連結決算の概況 連結売上高は二期連続で創業以来の過去最高を更新、72億円を実現

クエストの2007年度業績は、売上高については、半導体・金融・通信の既存顧客分野での取引拡大に加えて住商情報システムとの提携効果による取引増加を受け、連結売上高は72億12百万円(前期比4.6%増)と二期連続の増収を実現した。利益については、プロジェクト管理力の強化やインフラ、金融領域での請負型サービスの拡大により、利益体質は強化されたものの、人員確保に伴う人件費増と採用コスト増などの影響を受け、連結営業利益は4億58百万円(前期比2.5%減)、連結経常利益は4億76百万円(前期比0.3%増)および連結当期利益2億60百万円(前期比10.1%減)となった。

佐藤代表取締役社長は、以下のとおりコメントした。

「第4四半期以降は企業の設備投資の鈍化による大型一括案件の受注減少が業績に影響したが、一年を通して前期を上回る売上高、経常利益を実現することが出来た。2008年度は、サービス差異化に向けた事業提携や M&A、日系進出企業向け中国・インド事業強化、サービスモデルの確立と実践に取り組んでいく」

◆ 2007年度(2008年3月期)業績 (単位:百万円)

	当期	前期	増減率
売上高	7,212	6,892	+4.6%
営業利益	458	470	-2.5%
経常利益	476	475	+0.3%
当期純利益	260	290	-10.1%
1株当たり当期純利益(円)	47.73	*54.65	-12.7%

(注) *平成20年1月1日を効力発生日として株式分割(1:1.3)を実施。2007/3期の1株当たり当期純利益は、期初に1:1.3の株式分割が行われたと仮定した場合の金額

- ・ 連結売上高は、ソフトウェア開発業務、システム運用管理業の主力二事業含めた全事業にて増収となり、72億12百万円(前期比4.6%増)と二期連続で創業以来の過去最高を更新した。
- ・ ソフトウェア開発業務は、半導体・金融分野の既存顧客から安定的な受注があったこと、住商情報システム株式会社との提携効果による取引拡大などの好要因に対し、請負開発ビジネスや新規顧客開拓での苦戦、保守・受託案件の受注単価の減少などの要因により、売上高は36億19百万円(前期比0.4%増)と増加した。
- ・ システム運用管理業務では、金融・通信分野での既存顧客の深耕が順調に進んだことに加えて、請負型のセレクトティブアウトソーシングサービスなどの新規案件の獲得が売上を押し上げ、売上高は31億42百万円(前期比9.0%増)と増加した。
- ・ 利益については、プロジェクト管理力の強化、インフラ、金融領域での請負型サービスの拡大など利益体質が強化されたものの、人員確保に伴う人件費増と採用コスト増などにより営業利益は4億58百万円(前期比 2.5%減)、経常利益は4億76百万円(前期比0.3%増)および当期純利益は2億60百万円(前期比 10.1%減)となりました。

< 2008年度業績予想 >

2008年度通期の見通しは、連結売上高は創業以来過去最高を更新する81.1億円(前期比12.4%増)を計画。利益については、日系進出企業向け中国・インド事業強化、地域横断的な協業体制の確立、IT Value-Up サービス確立 等に関する先行投資2億円を行うため、経常利益は前期比9.1%増の5.2億円となる見通し。

この資料に記載されている株式会社クエストの業績見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

そのため、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠して投資判断を決定することは避けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご理解下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

< 添付資料 >

- ・ 「平成20年3月期 決算短信」

本日この資料は以下の記者クラブに配布しています。
兜クラブ

お問い合わせ先
株式会社クエスト 経営管理部
電話番号 03-3453-1181
FAX 03-3453-1184
E-mail ir@quest.co.jp
HP www.quest.co.jp